

## 衣類のお手入れ通信

春分の日（21日）「太陽が真西に沈み、その時に極楽浄土への道が開く」といわれ、江戸時代に信仰が高まりました。これが現在の「春のお彼岸」へと続いています。お彼岸は日本独自の習慣で、他の仏教国にはないものです。信仰の形は様々ですが、ご先祖を敬うという日本古来の文化をずっと大切にしていきたいものですね。

### 【どうして虫食いにあうのでしょうか？】

そろそろ衣服の虫食いを警戒する時期になりました。繊維を食い荒らす代表的な虫といえば、ヒメカツオブシムシ、ヒメマルカツオブシムシ、イガ、コイガの4種類です。春になると同時に活動を始めるのが、ヒメカツ

オブシムシとヒメマルカツオブシムシです。それよりひと月ほど遅れて活動するのが、イガとコイガです。これらの虫はすべての繊維を食べるわけではありません。ウール、カシミヤ、シルクといったタンパク質繊維を好みます。また、羽の生えた成虫は繊維を食べません。成虫が衣服にとまった際に卵を産みつけ、ふ化した幼虫が栄養源として繊維を食べます。ですから、衣服にとまった虫を追い払ったからといって虫食いにあわないわけではないのです。

衣服をしまう前にクリーニングしたり、市販の防虫剤を入れたりして予防しても、虫に食われることがあります。クリーニングで衣服についた虫の卵の大半は除去できます。ですが、産みつけられた卵が繊維に絡みついたり、クリーニング溶剤が卵の殻の中まで十分に浸透しなかった場合は完全に除去することは困難です。また、市販の防虫剤は虫が寄りつかないという効果に優れていますが、殺虫能力はそれほどありません。

残念ながら、市販の防虫剤だけでは虫食いにあうことがあります。さらに、虫が食べた穴の周りは、食べ残しのカスでおおわれています。そのため、着用時に虫食いの穴を見つけることはまれです。洗濯時に食べ残したカスが取り除かれ、穴を発見するというわけです。虫食いの穴は、発見するよりかなり前に虫に食われていた可能性もあるのです。

そして最後にもうひとつ、衣服に穴をあける虫がいます。それはゴキブリです！ゴキブリは繊維を食べるのではなく、衣服に付いた食べこぼしを狙ってやってきます。そして、食べこぼしと一緒に繊維もかじってしまい、衣服に穴があくことがあります。**衣服の汚れは虫にとってのごちそうです。しっかりと洗ってからしまうように心がけましょう。**

「害虫の喫食阻害率」というテストで、94.2%という極めて高い**防虫加工もお勧めいたします！！**

**定休日：日曜日・祝日**      **営業時間：7時30分～19時**

〒496-0901 愛知県愛西市佐屋町新田 1-6 ☎ ・ fax0567-26-9880 <http://105-929.com>

発行者：東郷俊博 愛知県愛西市、弥富市、蟹江町、飛島村、津島市、集配致します。